



校長室だより

2026年9月1日

丹波市立進修小学校長

「一生懸命」と「自分らしさ」が輝く2学期に

長い夏休みを終え、いよいよ2学期が始まりました。私たち教職員は、子どもたちの元気な顔を見ることができ、大変うれしく思いました。

始業式では、子どもたちと「人を思いやること」「一生懸命に取り組むこと」「自分らしさを大切にする事」について話をしました。

1学期の終業式で、子どもたちに「1学期を振り返って心に残った言葉」を書いてもらいました。その中で最も多かった言葉が、「一生懸命」でした。

「今できることを一生懸命頑張った。」(勉強や掃除、係りの仕事など)

「友だちのために一生懸命頑張った。」(低学年のために動いたなど)

「最後まであきらめずに頑張った。」(難しいことも友だち関係も)

子どもたちがそれぞれの場面で「一生懸命」に取り組んだことが伝わってきました。

ただ、「一生懸命」とは、必ず成功することではありません。うまくいかないことも、失敗することもあります。挑戦したからこそ、「できなかった」と気付くこともあります。

大切なのは、失敗しないことではなく、「失敗しても、もう一度やってみよう」と思えることです。そのためには、周りにいる私たち大人や友達が、安心して挑戦できる環境をつくるのが大切です。

「よくチャレンジしたね。」「次はきつとうまくいくよ。」そんな温かい言葉が、子どもたちの「もう一度やってみよう」という気持ちを支えていきます。

そして、2学期にもう一つ大切にしたいのが、「自分らしさ」です。

一生懸命になる姿は、一人一人違っていいのです。運動が得意な子、本を読むことが好きな子、友達を笑顔にすることが得意な子、困っている人にそっと寄り添うことができる子などいろいろです。みんなが同じである必要はありません。



自分のよさを見つけ、それを大切にしながら、一生懸命に生きること。

それが「自分らしさ」だと、子どもたちに伝えました。そして、自分らしさを大切にするということは、同時に、友達の「その子らしさ」も大切にすることです。

「この子には、この子のよさがある。」そう思える子どもたちが増えていけば、誰もが安心して過ごせる学校になっていくはずです。

9月1日は防災の日です。夏には、熊本や茨木の地震、千葉や福井の豪雨災害が起こるなど、それまでの生活が大きく変わり、不安な日々を過ごした子どもたちがいました。そのような中でも、人と人との支え合いによって、少しずつ前を向いて歩き始めることができた人たちがいます。

「大丈夫だよ。」「一緒にやろう。」「困ったときは助けるよ。」

こうした言葉や行動が、人の心を支えます。私たちも、同じ気持ちになることはできなくても、相手の立場になって考え、思いやることはできます。

困っている友だちに声をかける。悲しそうな友達の話を聞く。誰かのために、自分のことをする。こうした小さな行動を大切にしてほしいと子どもたちに伝えました。

2学期には、運動会をはじめ、さまざまな学習や活動があります。

一人一人の「一生懸命」が、みんなの笑顔につながり、一人一人の「自分らしさ」が輝く学校へ。

2学期も、子どもたちが安心して挑戦できる学校づくりを、教職員一同、力を合わせて進めてまいります。

ご家庭でも、子どもたちが何かに挑戦したときには、結果だけでなく、「やってみたこと」「一生懸命取り組んだこと」に目を向けていただければと思います。

「頑張ったね。」「やってみたことがすごいね。」「あなたらしくていいね。」

そんな言葉が、子どもたちの自信や次の挑戦への力になるのではないのでしょうか。

2学期も、学校と家庭が一緒になって、子どもたち一人一人のよさを認め、安心して挑戦できる環境をつくっていきたいと思います。

今学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

